

たいけん！  
なぶんけんノート

# はじめに

奈良文化財研究所では、  
お盆や正月の休み、雨の日を除き、  
一年中発掘調査が続けられています。  
夏の炎天下だって関係ありません。

発掘調査はどのように行われているのか？

見つかったモノの整理作業は？

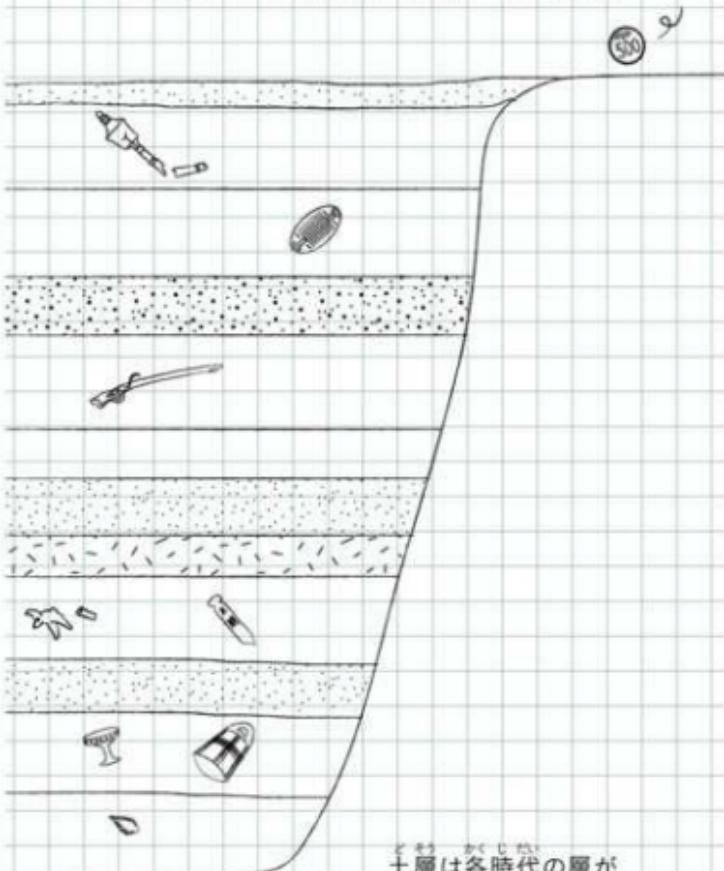
見つかったモノや遺構を、  
研究員達はどのように見て  
どのように考えているのか？

考古学というと難しく感じてしまいますが、  
考え方の基本を知ってしまえば、  
楽しいものです。

さあ、考古学の世界に  
足を踏み入れてみましょう。

# 層序

考古学は、  
発掘で遺跡から見つかった建物などの跡(遺構)、  
そこから出てきたモノ(遺物)などを研究して、  
むかしの人々の生活などを復元する学問です。



土層は各時代の層が  
積み重なって形成されます。

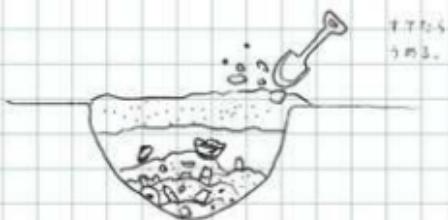
ですから、  
基本的に下にいくほど  
時代が古くなります。

# 遺構

地面を掘り下げるといふと、  
なにやら周りと違う土の部分が見えてきます。



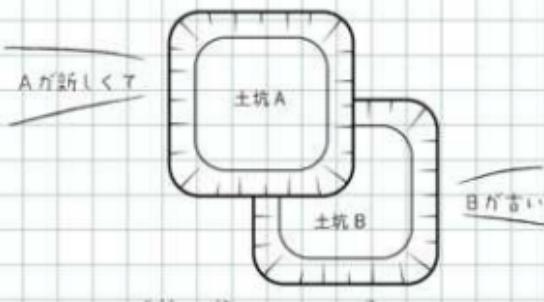
このうち、  
人が掘った穴や溝の跡などを、  
遺構と呼びます。



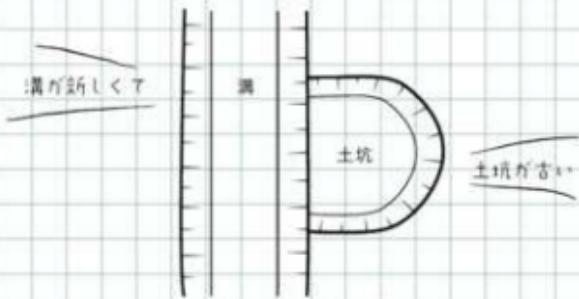
それぞれの遺構を発掘すれば、  
その遺構が何なのかを示す特徴や、  
いつごろのものなのかを示す遺物を  
みつけることができます。

# 遺構の重なり

時に、いくつもの遺構が重なって  
発見されることがあります。  
これは、違う時期の遺構が重なっているのです。



土坑 B を壊して、土坑 A が掘られた場合



土坑が埋まっただ後に溝が掘られた場合

いくつかの遺構が重なっているときは、  
どの遺構が他の遺構を壊しているかを観察し、  
遺構がつくられた順番を調べます。

# 層と年代特定

土層や遺構の新しい・古いは  
土層の重なりや遺構の重なり方から  
知ることができます。

そして、  
それぞれの層や遺構の年代を知るには  
そこから出てきた遺物がとても大切です。

木簡には作られた年が  
書かれていることがありますし、

いつ送った荷物が  
分かるようにして下さいね

瓦や土器は、時期によって  
形や文様が少しずつ違います。



形や文様から時代を知るには、  
これまでの瓦や土器の研究の  
積み重ねがものをいいます。

# さあ、発掘です！

でも、すぐには掘れません……

まずは発掘する範囲を決めましょう。

さらにその範囲内に、遺構や遺物の位置を  
記録するための細かな地区を設定します。

さて、掘り下げる作業です。

まずは遺構を確認する面まで  
掘り下げてしまいましょう。

遺構を傷つけないように。  
ていねいに



遺構がみつかったら  
作業は慎重に。

遺構同士の重なりや  
埋まっていた様子  
を観察し、図や写真  
で記録しながら掘り  
進めます。

出土場所が分からなく  
ならないように、注意

遺物が出てきたら、出土した  
場所や深さ、どの土に含まれ  
ていたかを観察・記録して、  
研究室に持って帰ります。



いこう は さぎょう  
遺構を全部出し切ったら、掘る作業はおしまい。

はん い さつせい  
発掘した範囲全体の写真を撮影して、

き 今度は遺構の図を描いていきましょう。

きじゅんてん ちょうさく  
基準点とともに、糸を使って調査区のなかに

じょう マス目状のラインを引いていきます。

ほか ものさしなどで測りながら、遺構の

カタチなどを1/20や1/10で

はうがいし 方眼紙に描いて

いきます。



遺構図は上からも、横からも描きます。



遺構ひとつひとつの写真も撮影していきます。

発掘作業を終えた調査区はキレイに埋め戻して、

これで現場での作業は終了です！

# 整理作業

発掘とともに、見つかった遺物を整理するのが、考古学のたいせつな仕事です。

## ①きれいに洗う

まずは遺物をきれいに洗わないと。  
どんな小さな遺物も見逃しません。



## ②記録を書き込む

遺物の裏面など目立たない場所に、遺跡名、番号、見つかった日などを書きこみます。

遺物に書き込みをしないと  
は、ラグをつけるよ

## ③台帳をつくる

遺物1点1点を把握できるよう、遺物の種類、遺跡名、番号、見つかった日などを記録したカードを作ります。



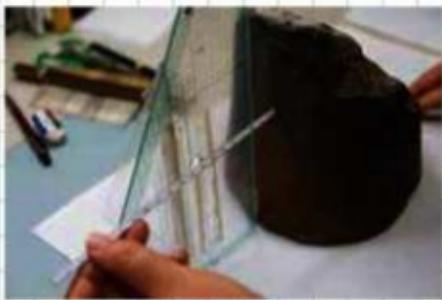
#### ④遺物をつなぎあわせる

発掘で見つかる遺物は、ふつう、壊れてばらばらの破片です。根気強くつなぎ合わせてもとの形を復元します。



#### ⑤遺物の観察と実測図を描く

遺物の大きさ・形だけでなく、遺物の表面の模様もようやキズ痕なども逃さず観察し、実測図を作ります。



#### ⑥写真撮影

光の強さや角度を調節しながら、隅々まできつとく映った写真をとっていきます。

研究所内に  
写真スタジオが  
あるよ



# 実測図の作成

じっそく ず 実測図とは、遺物の情報を詰めこんだ解説図です。

い じつ じょうほう づ 解説図ですから、遺物の大きさやゆがみ、

あつ 厚さ、作り方を示す痕まで

じめあと 正確に記録しなければなりません。

かうやく そこで活躍するのが色々な実測道具です。



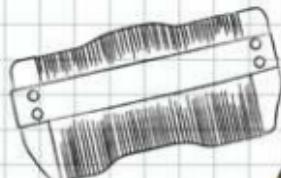
ディバイダー



モノの長さ・幅などを  
図面に再現します



キャリバー  
モノの厚さをはかります



直尺

遺物に押し当てて  
輪郭を写し取ります

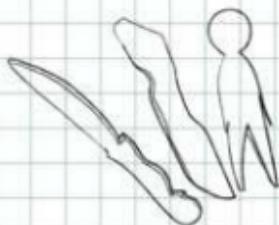


じつそく  
実測してみよう！

# 木製品のカタチと痕跡

古代には、色々なものの形をかたどった

木製品があります。



たとえばおまつりの  
ための人形や馬形、  
刀形……

鐵製品の見本として  
つくられた様など



一見しただけでは実用品かそうでないか、  
区別のつかない木製品は、たくさんあります。

そこで注目するのは、  
道具として使いこまれた痕です。



焦げた痕の残る火鑽臼  
(火を起こす道具) や、  
包丁の刃の痕が残るまな板、  
などなど

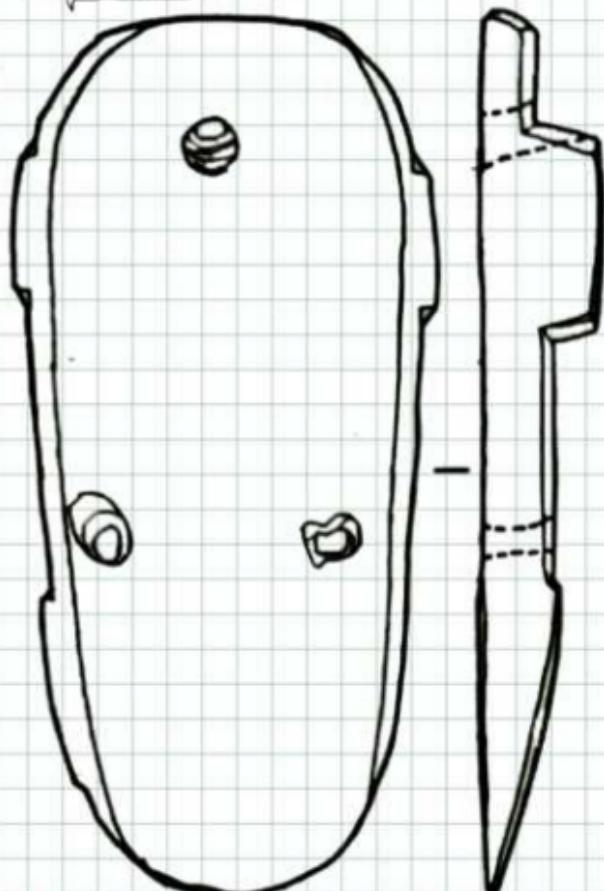
さて、今回みつかったものには、  
どんな使いこまれた痕が残っているかな？

小判型の板には3か所に穴があけられ、

裏面には底が高くなっている部分が。

これは下駄と考えられますが、  
さて、使いこまれた痕は見つかるかな？

描きこんでみよう！



みんなが履いている靴は、  
買ったばかりの頃と比べて、どう変わっている？

自分の靴に残された使いこみの痕も参考に、  
考えてみよう！

# 土器のカタチと使い方

発掘で見つかる土器のほとんどは破片です。

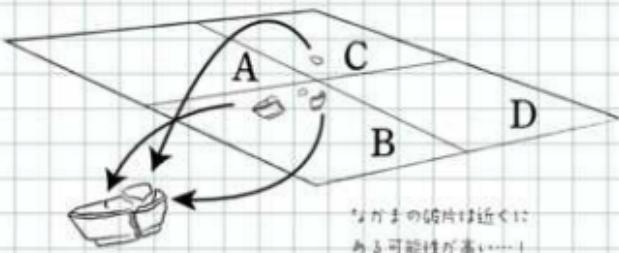
バラバラの破片は、くっつけていきましょう！

同じ地区から見つかった破片は

くっつく可能性が高いです。

色や、厚さ、作り方の痕を頼りに

破片をくっつけていきます。



もうくっつく破片がない、となったら

石膏を入れて元の形を復元します。



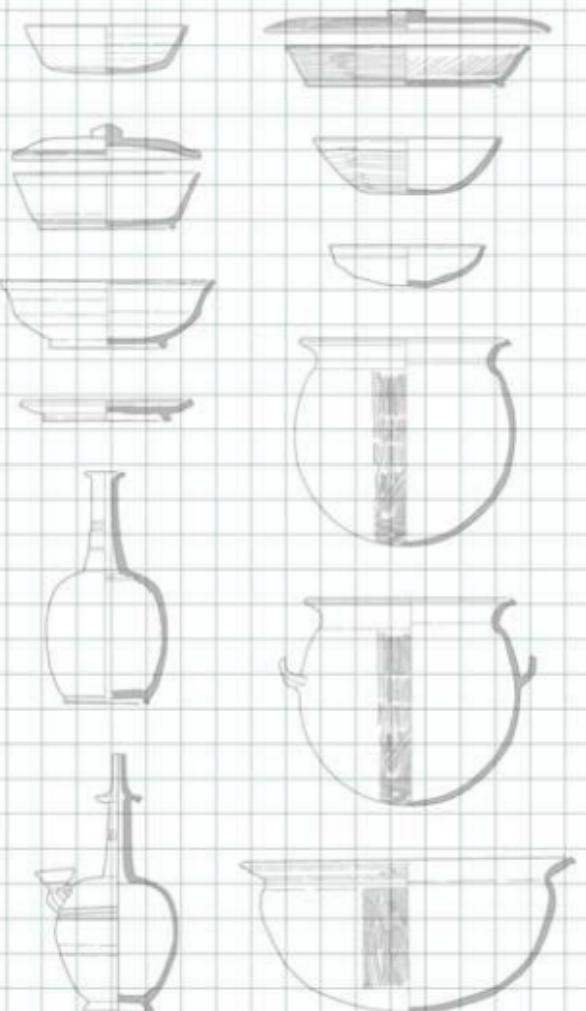
破片がくっつくと土器の本来の姿が見えてきます。

元の姿を取り戻した土器たちは、

どんなカタチをしているかな？

てんとう  
展示されている土器はどれかな？

みつけた土器をなぞろう！  
似た土器もたくさんあるから、よ～く観察！

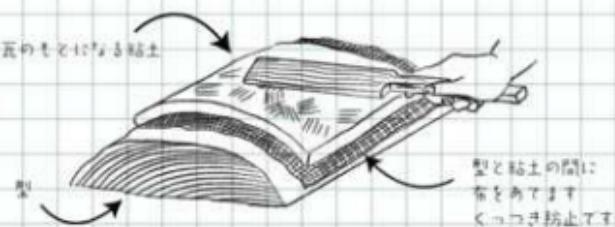


色々なカタチがあるね  
それぞれ何に使ったんだろう？

# 瓦の作り方

瓦はどのように作られたのでしょうか？

瓦の種類には色々ありますが、  
どれも型に粘土を当てて、型押しの方法で作りました。



型は木でできています。  
粘土は叩いてから焼くことで、  
ギュッとしまった瓦になりました。



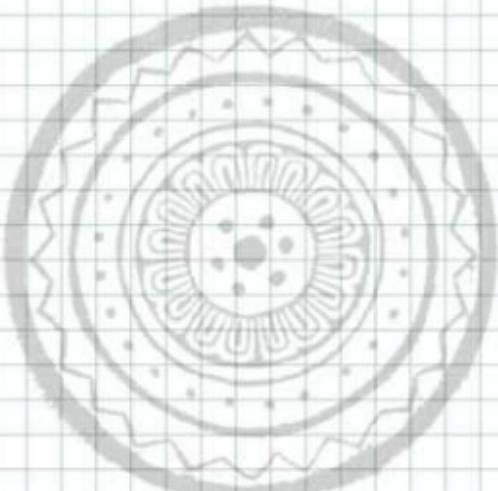
文様のある軒先の瓦は、  
文様を彫った木型に粘土を押し当てて作ります。  
ただ、何度も何度も使われるうち、木型もすり減り、  
割れ、くたびれてきます。

だから！

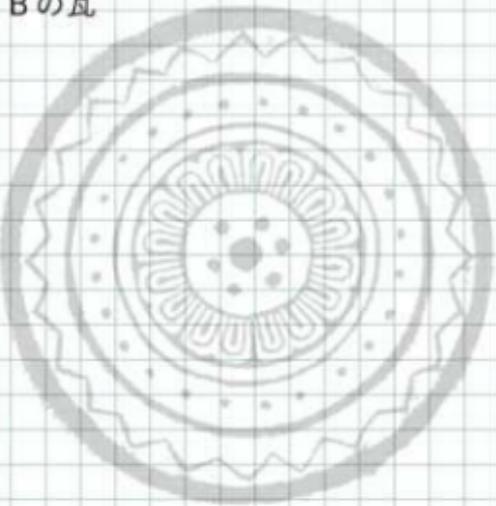
同じ文様でも、文様の変化を追うことで、  
瓦同士、どちらが古くてどちらが新しいのかを  
知ることができます。

それぞれの瓦の見えている  
文様の部分をなぞろう！

A の瓦



B の瓦



どちらの瓦が先に作られたか分かるかな？？

# 木簡の使い方と内容

木簡には色々な使い方がありました。

文書や帳簿として  
使われたり

横長に使うことも



お手紙なら差出人や宛先が、  
荷札なら荷物の品名や量が書かれたことでしょう。

たとえ折れてしまっていても、  
形や少しだけ読める内容から、  
その木簡の役割や内容の全体を想像することができます。

限られた手がかりから  
木簡の元の姿を考えてみよう！

くっつけた姿を書き加えよう！

箇段になっているのは  
何でだろう？



「長鮋」は細長く  
がつらむきにして  
干したアワビ  
のことだよ

ないよう…  
カタチと内容から、  
どのように使われた木簡と考えられるかな？

## 遺構を読み解く

古代の建物は、柱の立て方によって  
大きく2つに分けられます。  
基礎建物と、掘立柱建物です。

基礎建物は基礎という  
大きな石の上に  
柱を立てました。



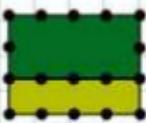
掘立柱建物は、  
地面に穴を掘って、  
柱の根本を埋めました。

写真は、引抜しのため柱を  
引き抜いているところだよ

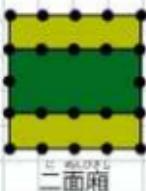
また、古代の建物の多くは、長方形が基本です。  
さらにその外側に、廂をつけて  
室内を広くすることもありました。



無廂



片廂



二面廂

ひとつの建物の柱は同規模になることが多いので、  
同じようなカタチと大きさで、  
一列に並んだ柱を据えた穴(柱穴)をつなげると、  
どんな建物が建っていたのかを、知ることができます。

# ちゅう けつ 柱穴をつなげて 奈良時代の建物をみつけよう！



まっすぐに並んだ、同じようなカタチと大きさの  
柱穴をつなげていこう！

平成 30 年度 平城宮跡資料館 夏のこども展示  
『たいけん！なぶんけん』  
発行日 2018 年 7 月 21 日  
発行 独立行政法人 国立文化財機構  
奈良文化財研究所  
〒630-8577 奈良市佐紀町 247-1 (仮設庁舎)  
<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/>  
企画編集 奈良文化財研究所  
企画調整部 展示企画室  
印刷 能登印刷株式会社

